

「まって」グッズ



「まって」グッズに含まれているもの

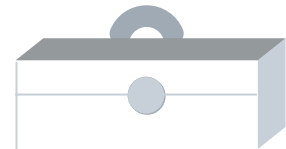
「まって」カード 1枚
通常サイズ: 縦12.5 cm X 横13.5 cm



チップ 5枚 直径1.5 cm



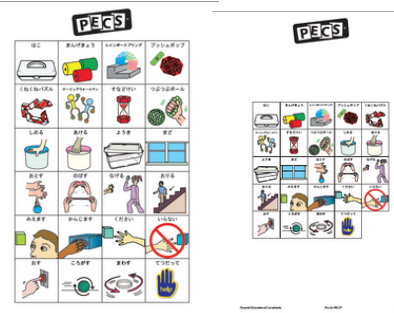
クリアボックス 1箱



感覚玩具 7個

(万華鏡 1個、スプリング1個、プッシュポップ1個、くねくねパズル1個、ローリングウォールマン1個、砂時計1個、つぶつぶボール1個)

絵カードセット 2ページ(5cm & 2.5 cm)



マジックテープ 15枚 (10mm x 10mm)



「まって」グッズ



まって



この「待つて」カードは学習者が静かに待つ必要がある時に渡すカードです。必ず最初は短い時間間隔(3-5秒)から始めましょう。そうすることで学習者が少しずつ待てるようになっていき、徐々に時間間隔を伸ばしていく(長くしていく)ことができます。学習者が30秒以上待てるようになったら、待っている間に「時間をつぶす」遊びグッズを渡します。この「待つてグッズセット」の中にあるアイテムはこの時に使用できます。

※待つてグッズセットの中にあるアイテムが強力な強化子でないようにチェックすることが必要です。

「まって」を教える理由

私たち誰でも、好きな物事を手に入れる前に待たなければならない時があります。どの子にも待つことが難しいときがあるものです。待つことを嫌がって激しい癇癢を起す場面をご家庭や学校、コミュニティで見かけることがあります。私たちがどんな時でも「待つ」という事ができることに対し、同じように対象とされている学習者の方々に「待つ」という事を日常生活で行われている活動内で教えていきます。



「待って」の教え方

学習者たちに欲しいアイテムを自発的に要求することを教える際、最初はそれらの要求を促すために様々な場面で多くの機会を作ります。そして、すぐにその アイテムや活動をさせてあげることで適切な要求を強化します。学習者が一貫して様々なアイテム/活動を自発的に要求できるようになったら、要求したものが毎回すぐに手に入らない時もあることを教える必要があります。

誰でも欲しい物を得るために待たなくてはいけない時があります。もし、学習者が発語または、PECS®を通して要求することを学んだら、要求した直後に短い時間待つように教える事ができます。計画的にこの「待つ」指導を実施すると、「待つ」必要性を予想していない状況であっても、学習者が数分待つことができるようになるでしょう。最初の数回の「まって」レッスンは支援者が何秒待つのか決め、その時間待った後にすぐに強化子をあげることができるように調整できるような環境でないといけません。

「待つ」を教えるための手順

「待つ」を教えるための手順は次の通りです：

- 1) 学習者が何かを要求してきたら、「待って」カードを渡します。
- 2) 1秒から2秒待ちます。
- 3) 「待って」カードを学習者からもらい「上手に待てたね！」等と言いながら同時に要求していたアイテムを学習者に渡します。

目標としている待つ秒数きちんと学習者が待てるようになれば(90%の機会で)徐々に待つ時間を長くしていきます。次にどの時間待たせたらよいのか決めるにあたってよく使われるガイドラインは、成功した時間間隔の50%長くすることです。例えば、もし2～3秒を待っている場合、次の待つ秒数は3～4.5秒という事となります。



学習者が設定した時間間隔待てなかった場合、次の待つ機会待ち時間を少し短くし、レッスンが成功するように設定します。数回はこの短くした時間間隔待つ練習をしました、計画的に再び徐々に待ち時間を伸ばしていきましょう。

学習者が30秒以上待てるようになったら「待ってグズ」の中にあるアイテムを持ったり遊んだりできるようにします。これは、私たちが歯医者などの待合室で待つときの時間つぶしと同じようなものです。学習者にはこの間「待って」カードを一緒にもってもらいます。

学習者はどのくらい待つことを学ぶべきですか？という質問がよくあります。現実私たちでも「待つ」事に対して苦労することはありますよね。なので学習者の年齢に合った現実的な目標を設定しましょう。例えば、幼児に2分くらい待ってもらうのは現実的ですが、3歳児に15分待たせるのは現実的ではありませんよね。目標を決める際に最適な方法は、定型発達の子どもの観察し、その子たちがどのくらいの時間きちんと待っているかを見出しましょう。

「逆行連鎖法」を使用し身体プロンプトを使ってこの手順を教えます。個々の活動の終わりに課題の終わりを学習者に告げる自然な手があり（例：タイマーがなる、食事が終わる、テレビ番組が終わるなど）は何かという事を確めます。これは次の活動は何かという事を確認するためにスケジュールに戻る学習者の合図となります。

「待って」カード

視覚的コミュニケーション様式を使用されている方々のためのユニークで独特なアイコンカード。

作成者：教育へのピラミッドアプローチ®とPECS®(Picture Exchange Communication System®)の開発者

「待つ」を教えることに関する詳細はこちら：

PECSトレーニングマニュアル第2版(フロスト & ボンディ、2002)にある258-261ページを参照ください。「待つ」を教える方法や、教育へのピラミッドアプローチ®及びPECS®(ペクス)の実施に関する詳細は弊社までお問い合わせください。

